

とうきょう すくわくプログラム活動報告

社会福祉法人 雲柱社
虹のひかり保育園

テーマ“色” 4歳児クラス

テーマ“色”を選んだ理由

園庭にあるお花を集めて、その花をビニール袋に入れ、お水を入れて遊ぶ姿が見られました。ビニールをモミモミして、お花の色を出しているのを見た子が数名「きれい～」と言い、「ぼくも」「わたしも」と、みんなが興味を示し合いました。見ている子も何色になるのかとじっと見つめ、中には家にもそれを持ち帰り大切にしている姿が見られるほどでした。そこで、みんなで色について活動を深めてみようと思いました。

あさがおを育てる

園庭にお花が咲いていることで、興味を持った色水だったが、「園庭の花はとらない」という約束で、子どもたちが、他クラスの園児から注意を受けることが予想された。そこで水遊びに摘んでいい花がほしいと考えた。ちょうどその頃、夏の野菜を園内で栽培する計画があり、季節を感じることができる、色鮮やかな花を紹介したところ、子どもたちが朝顔に興味を持ち、育てることを決める。

太陽の恵みで色とりどりの遊び

夏の訪れとともに、子どもたちが毎日楽しみにしていたのは、自分たちで育てたアサガオの成長を見守ることでした。

「せんせい、アサガオのお花咲いていたよ！」朝、登園するなり駆け寄ってきた子もいて、みんなで植えた小さな種から、ついにキレイな花が咲いたのです。アサガオを観察する中で、子どもたちは様々な発見をしました。「お花がおひさまのほうを見ている！」「はっぱがハートのかたちだね！」

子どもたちはアサガオが太陽の光を浴びて元気に育つ様子を肌で感じていました。

色水の魔法に夢中！

たくさんの花が咲くようになり、子どもたちはアサガオを摘んで、色水遊びに挑戦しました。「わあ、なんかジュースみたい！」「あかとあおをまぜてみよう！」アサガオの花を水の中で揉むと、たちまち鮮やかな色に変わり、子どもたちの目はキラキラと輝きました。紫やピンク、青…透明な水が色づく魔法のような光景に、子どもたちは大興奮。色の

変化を楽しみながら、自分だけのオリジナルカラーを作りました。この遊びから、子どもたちは色の不思議や混ざり合う面白さを学びました。

氷柱花でひんやりアート

「お花がこおりのなかに、とじこめられている！」次に取り組んだのは氷柱花づくりです。摘んだアサガオの花を水と一緒に牛乳の紙パックに入れ、冷凍庫で冷やしました。翌日、カチカチに凍った氷柱花を見て、子どもたちは驚きの声を上げました。

「アサガオがカチカチになっている!!」「はやくとけないかな？」溶けるのを待ちきれない様子で、手で温めたり、水に漬けたり、太陽の下に置いたり。氷がゆっくりと溶けていくにつれて、閉じ込められていたアサガオの花が姿を現しました。この遊びを通して、子どもたちは水が固体から液体に変化する様子を五感で感じることができました。

振返り：遊びから育つ子どもの力

アサガオの活動を通して、私たちは多くの子どもの気づきに出会いました。最初は「きれいだね」と色を楽しむだけだった子どもたちが、次第に「どうしていろがつくの?」「まぜるとどうなるの?」と、疑問を持つようになりました。

大人の気づきとして、子どもたちは遊びを通して、命の不思議や自然の美しさ、そして科学的な現象を自然と学んでいると改めて感じました。この発見を次への活動に繋げようと、種を収穫した後、今度はアサガオの「つる」を使ってリース作りに挑戦しようと考えています。アサガオの成長の過程を全て遊びに取り入れることで、子どもたちの探究心と創造性をさらに育んでいきたいと思います。

